

1 学校評価の目的

今年度の教育活動その他の学校運営の状況について「児童生徒」、「保護者」、「職員」による評価を行ない、結果に基づく本校の更なる教育水準の向上、学校運営の改善を図るために必要な具体的な方法を検討するためにアンケート調査を行った。

2 実施状況

- (1) 令和5年度校務運営会議による質問項目の検討
- (2) アンケートの実施
- (3) アンケートの回収
- (4) 結果の整理
- (5) 分析

3 アンケート結果

(1) 児童生徒

一番重要視しなければならない児童生徒の回答は言語表出・文字表記が可能な児童生徒に限られることから、全容を捉えることの限界を加味し、少人数の意見でもその意見を共有し、対応を検討する。

ア 回収の状況 36名の回収（回収率29%）

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目に対して「はい」「いいえ」「どちらともいえない」で回答、集計している。

ウ アンケートの概要

(ア) 児童生徒アンケート

共通項目として学校生活に関する7項目、対象生徒のみの寄宿舎生活に関する2項目について3件法により、また、学校生活および寄宿舎生活について自由記述による2項目のアンケートを実施した。

共通項目7項目の肯定評価（はい）が否定評価（いいえ）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 共通7項目（学校生活に関する項目）について

- ① 肯定評価：90%以上→7項目中0項目 80%台 →7項目中4項目
70%台 →7項目中2項目 60%台 →7項目中1項目

- ② 肯定評価割合が上位なもの（ ）内は前年度
学校生活に関する項目

・Q4 『先生は、あなたに健康や命の大切さを教えてくれますか』

肯定評価 89%(90%) 否定評価 3%(0%) どちらともいえない 8%(10%)

・Q6 『先生は、地震や火事が起きたときに、安全に身を守る方法を教えてくれますか』

肯定評価 89%(94%) 否定評価 3%(0%) どちらともいえない 8%(6%)

・Q7 『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』

肯定評価 83%(71%) 否定評価 6%(3%) どちらとも言えない 11%(26%)

- ③ 肯定評価割合が下位なもの（ ）内は前年度
学校生活に関する項目

・Q2 『あなたは、先生に何でも話し、相談できますか。』

肯定評価 67%(52%) 否定評価 6%(13%) どちらともいえない 28%(31%)

(ウ) 寄宿舎生活に関する項目（ ）内は前年度

・Q9 『あなたは、寄宿舎で安心して生活ができていますか』

肯定評価 89%(90%) 否定評価 0%(10%) どちらともいえない 11%(0%)

- ・Q10『寄宿舎の先生に気軽に話したり、相談したりできますか』
肯定評価 44%(80%) 否定評価 11%(0%) どちらともいえない 44%(20%)

(エ) 学校で楽しかったこと・頑張ったこと

※評価表参照

(2) 保護者

ア 回収の状況 89名の回収(回収率71%)

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Eの各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

E：判断できない。

*考察の方法として特に、肯定評価(A+B) [%]が否定評価(C+D) [%]を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 保護者アンケート

共通項目として学校運営、教育活動に関する12項目、加えて寄宿舎生活に関する3項目を加えた全15項目について、5件法によるアンケートを実施した。評価については、評価理由の自由記述を加えた。

共通項目12項目の肯定評価(A+B)が否定評価(C+D)を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 質問全項目12項目(学校運営、教育活動に関する項目)

① 肯定評価：90%以上→12項目中9項目 80%台→12項目中2項目
50%台→12項目中1項目

② 肯定評価割合が上位なもの ()内は前年度

- ・Q7『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』
肯定評価 100%(97%) 否定評価 0%(3%) 判断できない 0%(0%)
- ・Q8『担任は、ご家庭と十分に連携を図っていますか』
肯定評価 100%(95%) 否定評価 0%(3%) 判断できない 0%(0%)
- ・Q3『お子さんは、学校の学習活動に意欲的に取り組んでいますか』
肯定評価 98%(100%) 否定評価 2%(0%) 判断できない 0%(0%)
- ・Q11『毎日の学習活動は、将来を見据えたものになっていますか』
肯定評価 98%(92%) 否定評価 2%(7%) 判断できない 0%(1%)

③ 肯定評価割合が下位なもの ()内は前年度

- ・Q11『ホームページの内容は充実したものになっていますか』
肯定評価 58%(56%) 否定評価 18%(22%) 判断できない 23%(22%)
- ・Q9『学校は、いじめの予防や早期発見について、積極的に取り組んでいますか。』
肯定評価 83%(81%) 否定評価 5%(5%) 判断できない 11%(14%)
- ・Q10『交流及び共同学習は、お子さんにとって有意義なものになっていますか。』
肯定評価 84%(89%) 否定評価 6%(5%) 判断できない 10%(6%)

(ウ) 寄宿舎生活に関する3項目 ()内は前年度

- ・Q13『お子さんは、寄宿舎生活を安心して過ごしていると思いますか。』
肯定評価 100%(92%) 否定評価 0%(8%) どちらともいえない 0%(0%)

- ・Q14『寄宿舎の活動や行事は、お子さんにとって、充実したものになっていますか。』
肯定評価 100%(100%) 否定評価 0%(0%) どちらともいえない 0%(0%)
- ・Q15『寄宿担当は、ご家庭と十分に連携を図っていますか。』
肯定評価 100%(100%) 否定評価 0%(0%) どちらともいえない 0%(0%)

(3) 職員

ア 回収の状況 138名の回収（回収率100%）

イ 各項目の評価

アンケートは各質問項目ごとに、下記のA～Dの各評価の人数を割合として算出する。

A：非常に満足している、そう思う、大いに考えている、知っている

B：まあまあ満足している、まあそうだと思う、少しは考えている、少し知っている。

C：少し不満がある、少し違うと思う、あまり考えていない、あまり知らない

D：大いに不満がある、全く違うと思う、全く考えていない、知らない

*考察の方法として特に、肯定評価（A+B）〔%〕が否定評価（C+D）〔%〕を下回った場合は、大いに改善の必要がありと判断して具体的な方策を検討する。

ウ アンケートの概要

(ア) 教職員アンケート

共通項目として学校運営、教育活動、研修に関する14項目、加えて働き方改革に関する6項目を加えた全20項目について、4件法によるアンケートを実施した。評価については、評価理由の自由記述を加えた。

学校運営等に関する14項目の肯定評価（はい）が否定評価（いいえ）を下回った場合は、大きな改善点として具体的な方策を検討する。それ以外でも記述評価については職員で課題を共有する。

(イ) 学校運営等に関する14項目（働き方改革に関する項目を除く）について

① 肯定評価：90%以上→14項目

② 肯定評価割合が上位なもの（ ）内は前年度

・Q4『私は、児童生徒間の触れ合い、関わりを大切にし、悩みや困り感に寄り添い、人間関係の育成に努めている。』

肯定評価 99%(99%) 否定評価 1%(1%)

・Q7『私は、児童生徒が生き生きと学習活動に参加できるように努めている。』

肯定評価 99%(99%) 否定評価 1%(1%)

・Q3『私は、学校経営計画・重点項目に沿って教育活動（学校業務）を行っており、児童生徒一人一人の個別の指導計画に沿って学習目標を明確にして指導・支援をしている。』

肯定評価 97%(99%) 否定評価 3%(1%)

・Q5『私は何かあった時に、「チーム学校」の考えで、問題を一人で抱え込まないよう「報告・連絡・相談」に努めている。』

肯定評価 97%(99%) 否定評価 3%(3%)

・Q6『私は、児童生徒の将来につながるように、今できることを大切にし、将来につながるキャリア教育の視点で日々の指導・支援を行っている。』

肯定評価 97%(98%) 否定評価 3%(2%)

・Q12『学校は、保護者や地域に対して、担任からの説明やホームページ、学級通信により適切に情報提供・発信を行っている。』

肯定評価 97%(88%) 否定評価 3%(12%)

③ 肯定評価割合が下位なもの（ ）内は前年度

・Q8『私は、授業等において、AT・ICT教材を個々の児童生徒の実態に応じ工夫し、活用している』

- 肯定評価 90%(85%) 否定評価 10%(15%)
- ・Q9『交流及び共同学習は、児童生徒にとって有意義な学習活動になっている。』
肯定評価 91%(84%) 否定評価 9%(16%)
 - ・Q10『私は、キャリア発達の視点で個々の児童生徒の実態やニーズに応じた進路支援を行っている。』
肯定評価 93%(93%) 否定評価 7%(7%)
 - ・Q11『私は、校内外の研修の成果を児童生徒の指導・支援に生かしている。』
肯定評価 94%(94%) 否定評価 6%(6%)

4 考察

(1) 肯定評価と否定評価の割合（共通項目総計）

	回収率	肯定評価	否定評価	どちらともいえない 判断できない	評価割合
児童生徒	29%	77%	5%	18%	肯定評価>否定評価
保護者	71%	93%	3%	4%	肯定評価>否定評価
職員	100%	93%	7%		肯定評価>否定評価

児童生徒、保護者、職員ともに肯定評価が否定評価を高い割合で上回った。

(2) 各評価における分析

ア 児童生徒

- ・Q2『あなたは、先生に何でも話し、相談できますか』については、肯定的評価の割合が67%「どちらともいえない」との回答が28%の割合で示されている。昨年度の肯定評価の割合よりも15%高い値となっているが、生徒たちの相談支援を考える上で引き続き重要な点として意識していく必要があると考えられる。
- ・Q1『あなたは、学校での学習やスポーツ、自分の係など自信をもってやっていますか』の肯定評価の割合が、昨年度の肯定評価の割合より9%低い値となっている。児童生徒への学習支援を考える上で重要な点であると考えられる。
- ・Q7『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』については、肯定的評価の割合が83%であった。昨年度の肯定評価の割合よりも12%高い値となっている。withコロナとして、工夫しながら有効な取り組みが実施されてきているものと考えられる。
- ・小学部の結果の中では「頑張ったこと」の質問に対し、「運動会」や「漢字」、「けやき祭での踊り」など具体的な活動に達成感を感じている様子が見られる。
- ・中学部、高等部では「頑張ったこと」の質問に対し、教科の学習や作業、生徒会活動や自立活動に関わること等が挙げられた。日々の学校生活、学習活動において達成感を感じている様子が見られる。
- ・対象生徒のみによる寄宿舎生活に関する質問項目からは、Q10『あなたは、寄宿舎の先生に、何でも話し、相談できますか』について、肯定的評価の割合が44%であった。また、どちらともいえないの割合が44%となっている。思春期にある生徒たちとの関係作りにおいて重要な点であると考えられる。
- ・寄宿舎生活の中でできるようになったことの自由記述では、洗濯や掃除など、日常生活に関わる身の回りのことができるようになったことについて示されている。寄宿舎生活を通して、様々な生活スキルを身に付けられたことを実感し、充実感が得られていると考えられる。

イ 保護者

- ・Q7『担任は、学校での学習内容や学習活動を適切に説明していますか』及びQ9『担任は、ご家庭と十分に連携を図っていますか』の肯定評価の割合が100%となっている。日々取り組んでいる学習について、内容や取り組みの様子を保護者にしっかり伝えていることが評価されたものと考えられる。
- ・Q4『毎日の学習活動は、将来を見据えたものになっていますか』の肯定評価の割合が98%ということで昨年度に対して6%高い値となった。現在取り組んでいる学習が将来を見据えたも

のであることを各学部で保護者にしっかり伝えており、現在の学習の必要性が理解されてきているものと考えられる。

- ・Q11『ホームページ（フェイスブックを含む）の内容は充実したものになっていますか』の肯定評価の割合が 58%にとどまっている。記述意見の中には、フェイスブックでの情報発信についての意見も見られた。ホームページを見ていないという記述が例年多く見られ、情報発信の充実について継続して考えていくが必要であると考えられる。
- ・寄宿舎生の保護者のみによる質問項目については、肯定評価の割合が3項目とも100%となっている。寄宿舎生活の充実について評価されているとともに、家庭との連携が十分に取れていると考えられる。

ウ 職員

- ・Q4『私は、児童生徒間の触れ合い、関りを大切にし、悩みや困り感に寄り添い、人間関係の育成に努めている』とQ7『私は、児童生徒が生き生きと学習活動に参加できるように努めている』については、昨年度に引き続き肯定評価が99%であった。教職員それぞれが、児童生徒に寄り添い、主体的に学習に参加できるように高い意識で業務に当たっていると考えられる。
- ・Q8『私は、授業等において、AT・ICT教材を個々の児童生徒の実態に応じ工夫し、活用している』については、今年度肯定評価の割合が90%となった。昨年度の85%よりも5%高くなり、一昨年度の77%から13%高くなっている。自由記述からも学習活動において積極的に活用していることが伺われ、学校全体としてAT・ICT教材活用の実践力が高くなってきていると考えられる。
- ・Q9『交流及び共同学習は、児童生徒にとって有意義な学習活動になっている』については、肯定評価の割合が91%（前年度84%）であった。児童生徒アンケートQ7『あなたは、他の学校との交流及び共同学習が楽しいですか』の肯定的評価の高くなっており、交流及び共同学習の有意義な取り組みができたと考えられる。しかし、自由記述では、交流相手校とねらいや活動内容について共通理解を図る難しさについても書かれており、今後も工夫していく必要があると考えられる。